

週 報

2025 年度 教会標語

「主につながり、根を張り、枝をひろげて」

<先週の説教から>

『創立記念礼拝— その日、かの人々は幻を見て』

武田 真 治 牧 師

創世記 15:1~6 使徒言行録 16:6~10

本日の午後には『教会創立65周年記念コンサート』を開催します。そのチラシの背景の写真として、まさに65年前に旧園舎の建設中の写真を載せました。当時は何の建物もなく、ぽつんと教会と幼稚園だけしかありません。今はたくさん建物が立っています。この地に福音の種を蒔き始めた信徒たちは今の状況を予測されていたでしょうか？ おそらくその確信は持てなかったでしょう。しかし、この場所に教会が立ち続け、幼稚園がきっと根を下ろすだろう、神様が導いてくださるという“信仰による幻”を初代の伝道者や信徒たちは持って居られに違いありません！

聖書の中でこのような“信仰の幻に生きた人物”として挙げられるのはアブラハムでしょう。創世記 15 章 1 節で「主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ」とあります。彼はその神様から“示された幻”を信じて、再び歩み出しました！

新約聖書の中で“幻”に生きた人物ならパウロでしょう。彼は最初「ミシア地方の近くまで行き、ピティニア州に入ろう（＝伝道）とした」のですが、なんと「イエスの霊がそれを許さなかった」のでした。ピティニア州とは今のトルコの黒海に面している地域の事で、早くからローマの直轄地になり豊かで、人の往来も盛んで既にキリスト教の伝道が始まっていたのでした。それが「イエスの霊がそれを許さなかった」の意味です。つまり、他の伝道者がこの地で伝道を開始しているのだから、それを押しのけたり、邪魔をするなという導きであり、彼は自粛したのでした。なるほどですね。

そして、そこで彼は“神様からの幻”を与えられます。それが「一人のマケドニア（＝ギリシア）人が立って『マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください』と言ってパウロに願った」という“幻”でした。

この“幻”もまたイエス様からの示しであり、神様の導きであると言い得ます。そして彼は「すぐにマケドニアに向け

て出発することにした」のでした。これがヨーロッパにキリスト教が大きく広がる起点となったのです！

この箇所は彼が“主の霊と幻”によって導かれていたことをよく示していますが、考えさせられるのは『未来に向かってこれをしよう』という“幻”と同時に『これはするな』という導きも“主の霊”によって示されたという点です。今の置かれている状況を『神様が導いておられる』と受け取るなら、敢えて「引き下がる」ということもあると。問題は、彼はこれらをどう判断していたのかという点でしょう。それは常に『主よ、どうすべきですか？』と祈りつつ考えていたに違いないのです。それでこそ“幻と主の霊”の働きが見えて来る、分からせてくださる時があるということでしょう！

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 7 月 23 日（水）20:00
II. 7 月 24 日（木）10:30

聖書研究：ローマの信徒への手紙

祈祷主題：ダビデ会の活動を覚えて

担 当 者：（水）岡田 （木）中村

祈りに覚える人：松田さん 松山さん

*カフェひつじ雲 7 月 26 日（土）11:00～

【教勢報告】

主日礼拝 男 30 女 61 計 91

祈祷会 I. 男 4 女 5 計 9 II. 男 1 女 8 計 9

日曜学校 幼稚科 4 小中科 4 計 8

ハンナの会<7 月 15 日（火）> 男 1 女 6 計 7

【次週主日礼拝】 7 月 27 日（日）

聖 書：詩 編 53:1~7

ローマの信徒への手紙 3:9~18

説 教：「詩編 53—神は天から人の子らを
見渡して」 武田 真治 牧師

讃美歌：361(1)、32、433、346、132、27(1)

【次週当番表】

司式：金刺長老 奏楽：村上 礼拝：金刺長老

献金：関根 曾我 受付：金刺 坂田

会堂準備：大野 勝村 黒澤 鶴巻

西尾

看板：中村 週報：飯島 お花：飯島

【次週集会予定】

礼拝前：・聖書輪読会 ・求道者会

礼拝後：・牧師と語る会 ・お茶の会 ・幼稚園理事会

・牧会/伝道/礼拝/社会教育 各委員会

2025 年 7 月 20 日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧 師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見 2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549